

生徒の社会参画意識を高めるための 指導法の工夫

～志教育（宮城県版キャリア教育）におけるICTの活用を通して～

志教育，キャリア教育，社会参画意識，主体的協働的な学び，学級活動（3）「学業と進路」

宮城県大崎市立古川中学校

〒989-6152
宮城県大崎市古川二ノ構7番54号

<http://www2.educ.osaki.miyagi.jp/furukawa-c/index.html>

1. 研究の背景

宮城県教育委員会では小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていくことをねらいとして、「志教育」を推進している。

本校では「志」を「自己実現」と「社会貢献」と捉え、東日本大震災からの復興を担う「志高い古川の子ども」の育成を目指し、教育活動を展開してきている。「FYTS（本校独自の地域支援団体ファイツ）」と協働で行う体験学習（1・2年「キャリアセッション」、2年「職場体験学習」、3年「まちづくり学習」など）が特徴的であり、本校の志教育はキャリア教育優良校文部科学大臣表彰、「月刊生徒指導（2015.8月号）」の掲載など、高い評価を得ている。また、生徒はこれらの学習の一つ一つに積極的に取り組んでおり、生徒や保護者による学校評価からは充実した体験学習になっていることが確認できた。しかし、H26年度のhyper-QUや本校独自のアンケート結果からは、進路学習に対する意欲が段階的に低下傾向にあることや社会参画意識がなかなか高まらないという実態が浮き彫りとなった。さらに、教職員によるSWOT分析では、「志教育の体験が生かされ、自己の生き方や在り方について見通しを持ち、将来の社会の担い手となる志高い生徒を育成できる教育活動にする必要がある」という課題も明らかとなった。

そこで、H27年度から、本研究課題を掲げ、以下の手立てを講じて問題解決を試みている。

- (1) 総合的な学習の時間と学級活動（3）「学業と進路」を有機的に関連付けた中学校3年間を通じた進路学習の指導計画の作成
- (2) 各教科・領域における主体的・協働的な学びづくり

H27年度の実践の結果、生徒の進路学習に対する意識や社会参画意識は段階的な高まりが見られた。しかし、総合的な学習の時間「まちづくり学習」などでは、学習の過程で生徒が自由に情報収集や学習の記録ができるタブレット端末等のICT機器が充実すれば、より主体的・協働的な学びが可能となるだろうという反省が多く上がった。そこで、研究2年目となる今年度は、昨年度の取組に加えICT機器の環境を整えることで、さらに研究主題に迫ろうと考えた。

2. 研究の目的

上記のとおり、本校ではこれまで志教育について、多くの実践を行ってきた。しかし、「各教育活動の関連を見直し、指導計画を再編成すること」や「ICT活用によりさらに生徒の主体的・協働的な学びを促す」という課題がある。

そこで本研究では、以下の3点について研究を進め、生徒の進路学習に対する意識や社会参画意識を高めるために効果的な手立てであるかを明らかにする。

- (1) 総合的な学習の時間と学級活動を有機的に関連付けた進路学習の指導計画の再編成
- (2) 主体的・協働的な学びの場づくり
- (3) 主体的・協働的な学びの場における ICT の活用

3. 研究の経過

| ①時期 | ②取組内容 | ③評価のための記録 |
|----------------|---|---|
| 5月24日 | 進路や社会参画に対する意識調査（全学年） | アンケート調査（生徒） |
| 5月～11月 | 総合的な学習の時間「まちづくり学習」（3年） | 観察記録・写真・記述（生徒） インタビュー調査（授業者） |
| 6月29日 ～7月1日 | 総合的な学習の時間「職場体験学習」（2年） | 写真・振り返りレポート（生徒） |
| 7月13日 | 進路や社会参画に対する意識調査（2年） | アンケート調査（生徒） |
| 9月8日 | 総合的な学習の時間「キャリアセッション」（2年）の 実践 | 観察記録・記述（生徒） 講師とのシェアリング（教師） |
| 11月24日 | 志教育の自主公開研究会（総合的な学習の時間、美術、 学級活動、理科、道徳の時間） | 観察記録・写真・記述（生徒） インタビュー調査（授業者） 感想箋・アンケート（参観者） |
| 11月29日 | 進路や社会参画に対する意識調査（2・3年） | アンケート調査（生徒） |

4. 代表的な実践

(1) 自主公開研究会における学級活動の実践(11月24日)

題材名 「夢が広がる円卓会議ー将来ビジョンを語り合おうー」（2学年）

該当項目：学級活動(3) 学業と進路一オ・主体的な進路の
選択と将来設計

本題材は自主公開研究会で実践した授業である。既習事項（「職業人としての生き方や在り方」「地域や社会の一員としての生き方や在り方」）を関連付けて、自己の将来の生き方や在り方についての目標を考えさせた。さらに、その実現に向けた今後の過ごし方や取組を検討させる機会とすることで、進路設計への意欲を高められると考え、本題材を設定した。本時における具体的な手立ては以下の3点である。

- ① 総合的な学習の時間「職場体験学習」や「キャリアセッション」、その体験を基に行った学級活動を関連

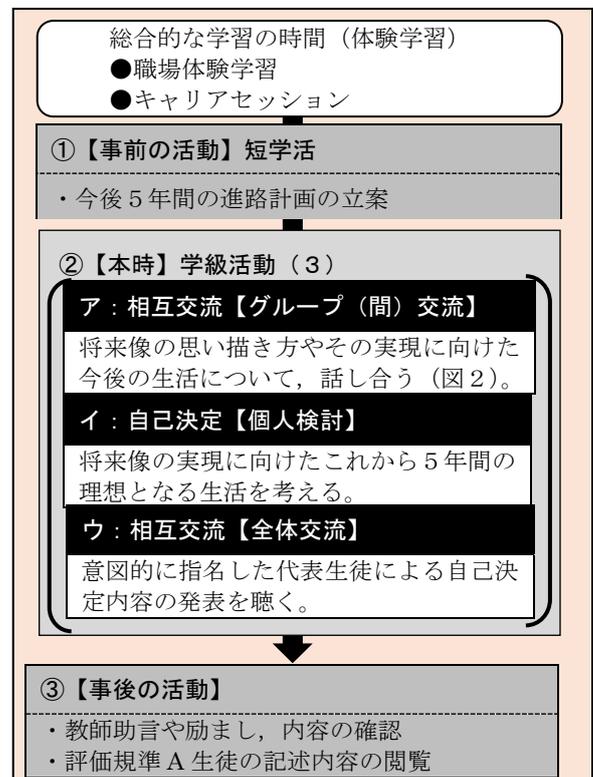


図1 総合的な学習の時間と学級活動との有機的な関連を図った指導計画

付け、進路設計について手順を踏んで検討することができる指導計画を編成した（図1）。

- ② 事前の活動として、既習事項（総合的な学習の時間の体験やその後の学級活動での学び）を生かし、中学校2年生からの5年間についての進路計画をワークシートに整理させた。本時では、進路設計についての見方や考え方を拡張・深化させる目的で、ワークシートを基にして生徒一人一人に自己の進路計画について考えていることを相互交流させた（図2）。



図2 相互交流の様子

- ③ 課題への意欲の喚起と自分の進路設計について発表することへの抵抗感を和らげるために、導入でVTR「TED 植松 努」を視聴させた（図3）。また、事前に整理したワークシートへの記述から生徒の実態を見取り、将来像が明確な生徒と不明確な生徒のバランスを考慮したり、異なる視点で考えている生徒を組み合わせたりと、グループ編成を工夫した。



図3 自己決定の様子

(2) 「まちづくり学習」における授業実践（3学年）

本校の「まちづくり学習」は、生徒が地域の課題を探り、その解決に向けた取組を考えて実行する学習である。この学習のねらいは以下の3点である。

- ア コミュニケーション能力や対人関係スキルなど、人間関係形成能力を高めさせる。
- イ 夢に向かう一人の人間、そして社会を担う一員としての生き方や在り方を探求させる。
- ウ 社会の一員として自己を生かし貢献しようとする態度を育てる。

これらのねらいに迫るため、以下のような学習活動を展開した。

- ① 準備「地域課題の解決に向けたアイデアを吸い上げ、プロジェクトを立ち上げる段階」

地域の課題を探り、その解決に向けてこれまでの3学年が提言してきた内容やH27年度に実際に実行した取組、そしてタブレット端末を使って実践事例を集めさせた。これを基に、地域支援者との対話を通して、「地域社会への貢献度」「実現可能性」の2つの視点で、アイデアを整理させた。その結果、今年度は「情報発信」「人が集まるまちづくり」「絆づくり」「きれいなまちづくり」という4つのプロジェクトとなった。

- ② 計画「プロジェクトチームを編成し、実行に移す取組を話し合い、計画を立案する段階」

3学年生徒190名が自己の取り組みたいプロジェクトを選択させ、4つのプロジェクトチームを作成させた。その後、プロジェクト毎に自分たちの取り組むことを話し合いによって決定させ、計画案を作成させた。

- ③ 制作「地域の支援者に自分たちの計画案についてのプレゼンテーション行う準備段階」

「自分たちの計画案を分かりやすく伝える」「観る人に興味を持たせる」という視点で、プレゼンテーションに向けた準備をさせた。タブレット端末を使って、効果的な発表の仕方を調べたり、発表原稿をグループで練り合ったりする様子も見られた（図4、5）。

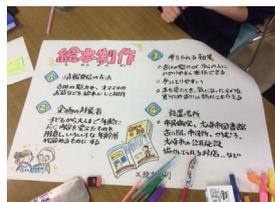


図4 ポスターづくり



図5 発表原稿づくり

④ プレゼンテーション「地域支援者に計画案を説明し、アドバイスをもらう段階」

地域支援者（市役所、商工会議所、NPO 法人、商店街振興組合などの方）をゲストに計画案についてのプレゼンテーションを行わせた。その後、生徒たちの計画案に対して、実行する上での課題点や計画が不十分な点について意見をいただいた（図6）。



図6 プレゼンテーション

⑤ 再構築「実行に向けて、実施計画を作成する段階」

地域支援者からのアドバイスを基にして、実行に移すための実施計画を作成した。この段階で、「実行するための費用が足りない」「もっと地域のニーズを調査する必要がある」という課題が浮き彫りとなったチームもあった。しかし、全校生徒で廃品回収を実施することや地域に出てもう一度インタビュー調査を実施するなど、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿が見られた。

⑥ 実行「実施計画を基に、実行する段階」

以下のような活動を生徒たちは実行に移した（表1）。

※活動については、代表として情報発信プロジェクトについてのみ紹介する（図7）。

表1 プロジェクトチーム毎の取組

| プロジェクト | 活動内容 |
|------------|---|
| 情報発信 | ○「ランチMAP」の作成 |
| 人が集まるまちづくり | ○古川まつりへの参加 「ステージ発表」 ・合唱 ・リコーダー合奏 ・吹奏楽演奏 「出店」 ・飲み物の無料提供 ・水ヨーヨーとり |
| 絆づくり | ○災害公営住宅での活動 ・ラジオ体操 ・昔の遊び ・七夕飾り共同制作 |
| きれいなまちづくり | ○花植とゴミ拾い |



図7 ランチMAP作成の様子

⑦ 成果発表「自主公開研究会で参観者に対して、これまでの学習の成果を発表する場面」

これまでの学習の経過と成果について、生徒はスライドを作成し発表を行った（図8）。その後、生徒と参観者がワークショップ形式で「まちづくり学習」について意見交換や質疑応答を行った（図9）。



図8 発表の様子



図9 意見交換の様子

5. 研究の成果

(1) 総合的な学習の時間と学級活動を有機的に関連付けた進路学習の指導計画の再編成

総合的な学習の時間と学級活動を有機的に関連付けたことにより、生徒は体験を通して学んだことを生かしながら、学級活動での話し合い活動に取り組めるようになった。互いの考えを共有しテーマに沿って話し合う中で、見方や考え

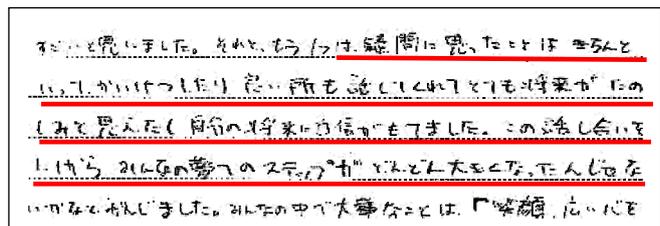


図10 生徒Cのワークシート記述内容 ※一部抜粋

(3) 主体的・協働的な学びの場における ICT の活用

「まちづくり学習」で ICT を活用した結果、以下のような成果が確認できた。

① 「課題発見」の場面での情報収集

H27 年度まではこれまでの本校の取組を繰り返すようなアイデアしかでなかったが、タブレット端末によって、情報収集がかんたんに行えるようになった結果、アイデアが豊富に出されるようになった。

② 「ランチ MAP」作成の際の取材活動 (図 15)

タブレット端末を使って取材活動を行えるようになった結果、自分たちで掲載する写真を撮影できるようになった。また、お店へのインタビューも動画撮影し記録できるようになったことから、それを基に実際に取材に行っていないメンバーとも掲載内容を検討することができるようになった。その結果、制作作業が効率的に行えた。



図 15 「ランチ MAP」の記事づくりの様子

③ 「成果発表」のプレゼンテーションの準備

タブレット端末を使って、プレゼンテーションの構想や原稿づくりを行うことで「スライドにどのようなことを入れるか」「どんな説明をするか」を生徒は話し合いながら決めていくことができた。その結果、分かりやすく発表することができた。

※詳しい学習の様子については <http://www.hotpocket.jp/top/top.cgi> に掲載。

6. 今後の課題・展望

本研究において、「まちづくり学習」などの主体的・協働的な学びの場でもタブレット端末の有用性が確認できた。その他にも今年度は第 57 回放送教育研究会東北大会や自主公開研究会の理科でも、タブレット端末を活用した授業実践を行い、参観者から「有効な活用方法である」という感想が多かった (図 16)。

今後の課題は、ネットワーク環境を整え各教科の授業においてタブレット端末の有効な活用方法を検証していくことである。本校ではセキュリティーの関係上、「Apple School Manager」などを活用できない状況下にある。この課題を解決することで、さらに主体的・協働的な学習活動が可能になることを期待したい。



図 16 タブレット端末を活用した理科の実践

7. おわりに

研究助成を受けたことで、教員が授業での課題提示などで ICT を活用することが日常的になり、それぞれの実践について共有し合うなど、学校全体の情報化が進んだ。また、タブレット端末を有効活用する上で東北工業大学にご協力をいただいたり、自主公開研究会の開催にあたって、宮城教育大学や仙台大学を初めとする多くの方の協力を得ました。ありがとうございました。今後もこのようなネットワークを生かしながら、本校の研究を推進していきたい。